

「一帯一路」とユーラシア 広域交易圏セミナー

—— 激動の国際社会の中、我々は、何をすべきか!? ——

- 主催：一般財団法人 運輸総合研究所
- 協力：アジア物流研究会
- 日時：2019年6月24日(月) 15:00～18:30(開場 14:30)
- 会場：イイノホール&カンファレンスセンター 4階 ROOM A

会場内での撮影・録音は禁止させていただきます。(主催者が許可した者を除く)

プログラム

- 15:00～15:05 開会挨拶 宿利 正史 運輸総合研究所 会長
- 15:05～15:10 来賓挨拶 藤田 耕三 国土交通省 国土交通審議官
- 15:10～15:20 イントロダクション 「一帯一路」とは
- 15:20～16:00 基調講演
「一帯一路」をどう読み解くか?
～モンゴル帝国が築いた「寛容」なユーラシア広域交易圏を振り返りつつ～
家田 仁 政策研究大学院大学教授、東京大学名誉教授
- 16:00～16:20 コーヒーブレイク
- 16:20～17:10 講演
一帯一路時代の国際交通政策 ～日本と中国の海上輸送を中心に～
柴崎 隆一 東京大学准教授
- 17:10～18:00 講演
ユーラシア大陸間輸送網の利活用 ～日系企業が大陸間鉄道を利用するには～
山口 修 日通総合研究所 Principal Consultant
- 18:00～18:30 質疑応答 柴崎 隆一 東京大学准教授
山口 修 日通総合研究所 Principal Consultant
モデレーター 山内 弘隆 一般財団法人 運輸総合研究所 所長
- 閉会

家田 仁 政策研究大学院大学 教授、東京大学 名誉教授

1978年 東京大学工学部土木工学科卒業、日本国有鉄道入社、
1984年 東京大学助手、1986年 東京大学助教授、1995年 東京大学教授。
2014年 政策研究大学院大学教授を兼務、2016年 同 専任となる。
この間、西ドイツ航空宇宙研究所、フィリピン大学、中国清華大学に長期派遣。
専門は、交通・都市・国土学。
技術士（総合技術監理、建設）、土木学会特別上級技術者（交通）。
国土交通省・国土審議会、社会資本整備審議会、交通政策審議会など、政府・自治体の審議会や委員会などに参加。所属学会は、土木学会、日本都市計画学会、アジア交通学会など。
著書（いずれも共著）に、『社会インフラ メンテナンス学』、『東海道新幹線と首都高 1964東京オリンピックに始まる50年の軌跡』、『鉄道が創りあげた世界都市・東京』、『変貌するアジアの交通・物流－シームレスアジアをめざして－』などがある。



紫崎 隆一 東京大学 准教授

1999年 東京大学大学院工学系研究科・社会基盤工学専攻修士課程修了。2000年～2002年東京大学工学部助手、2002年～2012年国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）港湾研究部研究官および主任研究官、2012年～2015年（一財）国際臨海開発研究センター研究主幹、2015年～2017年国総研国際業務研究室長、2017年より現職。この間、中国清華大学深圳研究生院（大学院）現代物流研究センター訪問研究員、京都大学経営管理大学院客員准教授なども務める。
専門は国際物流・国際交通モデリング。財団法人時代は発展途上国の港湾開発プロジェクト（JICA、国交省等）にコンサルタントとして参画、年の半分程度を海外で過ごす。現在の主な研究テーマは、世界各地を対象とした国際物流シミュレーションモデルの構築、AIS等の船舶動静に関するビッグデータを用いた物流分析など。近編著に「グローバル・ロジスティクス・ネットワーク」（成山堂書店、アジア物流研究会著）



山口 修 日通総合研究所 Principal Consultant

1990年 大手建材メーカー入社、企画・マーケティングー基本設計ー購買ー生産ー物流ー販売を一貫して統括した経験を持つ。
2004年 株式会社日通総合研究所入社後、前職の経験を活かし、ビジネスモデルの一部としての拠点再編などの物流戦略構築の経験を多数持つ。
近年は国内外のインフラ案件を物流面から支援する業務を多く手掛ける。空港案件では羽田国際空港、仙台空港、新千歳空港などに携わる。2014年度からユーラシア大陸の横断鉄道輸送に関する各種業務にも携わる。業務実績として経済産業省「平成30年度 質の高いインフラの海外展開に向けた事業実施可能性調査事業（チャイナ・ランド・ブリッジの利活用推進に向けたハード・ソフト面の改善のための調査）」、国土交通省「平成30年度 シベリア鉄道の貨物輸送の利用促進に向けた実証事業等による調査委託業務」等がある。
2004年 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 修士課程修了（MBA）

